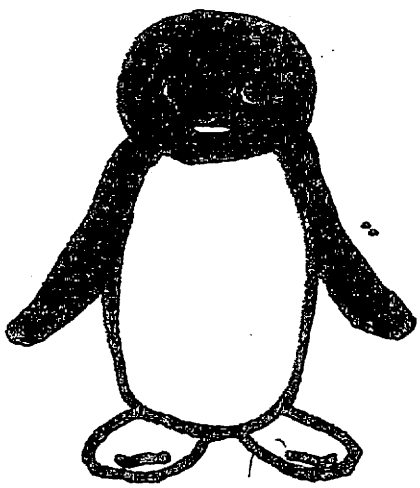
GW合宿・新人合宿
報告書



信州大学山岳会

No.

G.W 雪訓 IN 乗鞍 1998 5/4.5 全員

記録

5/4 6:00集合・BOX 6:25発 ≒ 8.00 三本滝 8.30 = ___

雪訓 ___ → ___

5/5 起床 ___ BC ___ ~ ___ 雪訓終

(希望者のみ乗鞍ピストン) ~ ___ BC着

BC ___ = ___ 三本滝

今回GW合宿を岳沢で計画するも、偵察の報告で雪が非常に少なく、雪稜はもちろん雪訓するのも難しいだろうと判断。急きょ雪訓のみ乗鞍に場所をうつして行うことにした。

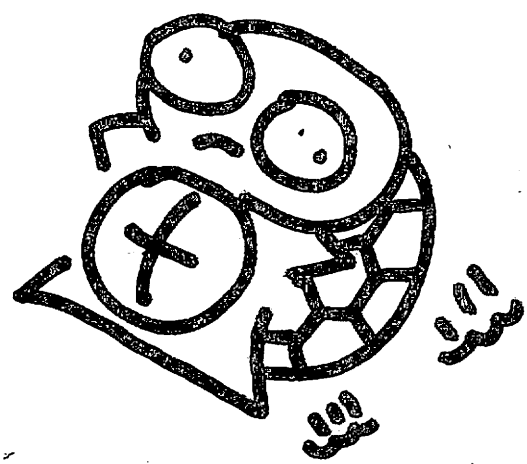
乗鞍はスキーヤーだらけで、雪訓をしているのは俺達ぐらいのものだった。雪訓はなかなか充実したと思う。

記) はらだりょうすけ

いきなり

新人合宿

ほーこく!



記録

5/24(日)

BOX 5:15 ◎ — 砂防ダム 6:00‖6:30 ◎ — 二俣 7:20‖7:30 ◎ — 8:20 9:25 — 岩魚留 10:45‖11:00 ● — 12:45 — 1:30 — 3:45 — 徳本峠 15:00‖15:30 ● — 16:20 — T.S 17:20 ●

～感想～

待ちに待った新人合宿だったが、今日はあいにくの大雨だった。しかし、島々谷の美しさで、それほどいやな行程ではなかった。野田さんが「ストリップ ストリップ」とうるさかった。今度、おごりで連れていってほしいと思った。今日、徳本峠から明神岳が見れなかったけど、それはまた今度の機会にゆずるとして、とりあえず明日以後はがんばってくださいね。

横山 勝丘

何もかもが初体験(♡)だった。雨も最初はいいが降り続けるとにくいだけ、自分の隊の中で何ができるか返事はしっかりして行動は素速くできるようにしたい。

松崎林太郎

5/25(月) 5:00 起床

TS 7:10 出発 → 徳沢 8:20 → 横尾 10:10 → BC 11:00頃

今日も雨だった。初めての山登り。昨日の徳本峠越えでバテバテになった。初っかれをんきずりながらの今日のBCまでのコビッチのトレッキングだったが、川ぞいの景色がとても美しかった。なんて景色を見る余裕は僕には全くなかったがとりあえず無事にBCまで到着できたのでよかった。
BCから一瞬だけ見えた屏風岩はでかくてゆう大だった。
ここまでの反省点はやはり消極的な体力不足だろう。途中でバテてしまって、隊のみんなに迷惑をかけてしまうのは今回だけになるよう下界に戻ったら体力作りをきずしなければ。
縁操作や利順等もしっかり覚えて手早くできるようにしたい。
明日以降も気をんきしめて合宿を十分に楽しみたい。
今日は荷の後エッセンでもなくヒマなので、とりあえず岡本さんに負けないぐらいのピケでものばそう。一週間後がどうなっているか楽しみだ。
ヒマなので長々と書いたが、まだ雨も降っている。後はメシくって、ストレッチして、明日に備えて寝よう。

横山 ハッ

5/~~24~~25
(月)

今日の行程は明神のTSを出発して、~~[illegible]~~
徳沢園を経て、~~[illegible]~~横尾のBCに至った。空は
未だクズついている。曇りで、時折雨がパラついた。今
4時すぎ、また降りだしている。
荷物が非常に重かった。もともと僕にとって未経験の
重量が、肩を石でもう押かった。
BCでは時間と分担がはっきり、晩ごはの時間など
皆で看板テンに集い、初めて楽しく笑うことができて
うれしかった。

オビ

4:00起床
5/26(火) 5:15発 ─ 6:05 13:35 ─ 15:30
雪訓終了 B.C.

なんと晴れた!! 涸沢の雪訓。技術をしっかり習得しなければ
ならないと実感した。キムチなべは最高にうまくて苦しかった

若ノ花がなんと横綱になり ジョンボは機不気嫌。松田聖子
はまた子作りに先念。 ひょうご岩は力コイイ。
松寺

今日は雪訓がありました。涸沢ヒュッテの階段を降りて
兄貴がとっとこん走りだした。ばばった。走った。バテた。
でもがンバった。それにしても川井さんの速さにはびびった。
タバコを吸っていてあんなに速いなんて…。スゴイ。
そしてキムチ鍋のうまさに感動。そして食いしどこに涙。
明日もダッシュそして食いまくる。 板原 (K)

5/27(水) 4:00起床

BC ─ 涸沢 ~ 雪訓 ~ 涸沢 ─ BC
5:20 8:00 9:00 14:00 15:35

はずかしいまでの決断に私がいちばんびっくりした。涸沢までの景色の美しさはいうまでもない。特に屏風岩の[illegible]
それで涸沢から決定的な[illegible]。更に[illegible]上日私の[illegible]のうのこは入道雲のようで
やけに決意。涸沢毛は川井さんが[illegible]で驚かされた。いつまでたってもピッケルストップ
うまくいかない。明日のピッケルハントを[illegible]方面にはいけなくなる。たけしが入賞する。
やってやるぞ―。それでもう一つ、今日、北国の帝王がやってきた。しょっぱなっ、まっぱ。は。

5/28(木) 4:00 起床

若尾、大木以外は大峰アタック

BC. 5:15 ―― 涸沢ヒュッテ 7:25〜40 ―― 雪訓場所 8:20〜12:30 (剱穂北稜5 コル下 CO2550) ―― 涸沢ヒュッテ 13:07〜13:25 ―― B.C 15:25

CO 1860 14:30〜40

昨日から新人合宿に合流し、今日初めて涸沢に行った。
道中の景色はネパールのアプローチに似ていて、日本にもこんな所があったのかと思った。谷中のくてもスケールが大きく美しかった。

若尾和也

5/29(金)

朝から雨が降っており沈殿。

「いやーオレきのう登ってきただけんども ついたとたんたべ?
雨降ってきたの。そんなこつー はー まいったまいった。」

(深沢談)

5月30日(土) 2:00 起床

BC 5:10 ―― 蝶ヶ岳 8:15〜8:45 ―― 横尾 11:00 ―― BC 12:00

今日は、本当は穂ヶ岳へ行く予定だった。また花谷さんと大木さんは屏風岩に行く予定だったが、どちらとも雨のため予定変更で蝶ヶ岳ということになった。
ちょっとくやしかったが、みんなで登れるので、楽しみにすることにした。途中の槍見台という所で、雨がやんできて、屏風や槍が見えてきた。後悔してももうおそい。だいたいこんなものだ。頂上までの道は楽。あっという間だった。
山頂はけっこうせいいところで、かんづめや白コクリームをくいまくった。少し見えた穂高が印象的だった。
下りは、登りよりも長く感じられたが、11時に横尾着。
その日は1年生はボーッとして過ごし、先輩方かわってくれた食を感激しながら食い、飲み会も大いに盛り上がって、最後の夜はおわった。あの星をまた見たい。

横山陽介

5/31 新人合宿最終日

6:00 → 7:00 → 8:00 → 9:00 → 12:00 → 2:00

エッセン起床　BC出発　横尾　墓まいり　上高地　松本到着

かっぱ橋からダイブ

一週間は長いようであっという間に過ぎてもう最終日だ。
墓まいりを終え、上高地に近づくにつれ、人が増えてくる。
いざ終わりとなるともう少し山にいたい。
自分にとってはつらかったが、その分みのりの多かった今回の合宿の最後はかっぱ橋からダイビング。
拍手かっさいを受け合宿はこれにて終了。
みなさんお疲れさまでした。

横山 輝生

No.

新人合宿を終えて　はらだりょうすけ

新人合宿が終わって、やっと一区切りがついた。これから夏に向けてまた忙しい生活が続くことだろうが…。

今回の合宿はアプローチが雨ということで、山登りが初めての人間にとってはかなりつらい面があったと思うが一年生はよく頑張ったと思う。歩行技術や生活術などもやはり最初は問題も出ていたが、少しずつよくなっていったように思う。この後の個人山行や縦走、夏合宿でそれをよりいっそう確かなものにして欲しい。何といっても冬が本番なのだから。

個人的には4回目の新人合宿ということである程度の余裕があり、リーダーであることの緊張感をうまく保てたのでは、と思う。アプローチでつかもうなど1、2年を見たり、大峰で3年前の自分を思い出すにつけこの3年間という時間の長さも思い知らされた。この1年生もまた自分と同じように、3年後に同じ思いで新人合宿に来るのだなと思ったりした。また逆に自分が一年のとき3、4年生に対して感じた魅力や実力の差というものを自分は見せられているのだろうかと不安にもなった。足りないところはたくさんある。"まだまだぜんぜん"。

新人合宿 反省と感想

S.Lに降格した
花谷 泰広

<反省>

1年生じゃないが、とにかく防火が甘かった。まさかこんなに激しく降るなんて…… 甘かった。4年にもなってこんな反省を書くなんて情けない話だが、初心を忘れず、こういう基本的な事は手を抜いちゃいかんと思う。あと、新人合宿4回目にして初の途中下山をしてしまった。合宿は途中でぬけると零囲気にとけこめなくなってしまう事もあるので、やっぱり全部参加すべきである。我々の活動の主体は合宿なのだから……。雪訓では積極的に教える事ができて良かったと思う。

全体的に1年生に対し、甘い合宿だった。今までやった新人合宿で一番甘かったと思う。もっとひきしめていった方がよい。そしてそれはリーダーの指示からでなく、自分の意思で行うべきものである。

<感想>

屏風に登りたくて登りたくて1日下山しただけでとんで帰ってきたけど、結果的に天気が悪く、登れなくて残念で仕方ない。けっこう練習してきたのに…… でも楽しかった。ひさしぶりに山に行ったというのもあるけど、やっぱりB.Cの零囲気は何物にも勝る。B.Cにいると下界の嫌な事も忘れ、風邪もなおり、屏風の景色をながめながら、飯を食う。ここで1カ月くらい過ごしてみたいものだ。

反省、感想　　3年 川井

今までの新人合宿に比べると自分の中にずいぶん余裕があった。荷物が軽い、1年生の指導は2年生に任せられる、という事もあるが「次に何をするのかがハッキリ分かっている」という事が大きい。そのお陰で今までとは違った角度から隊を見ていた。
1年生はこの会の方針を知り、2年生は指導するという事を知り、3年生は隊全体を見て次に何をすべきか考える事を知る。この合宿にはそんな意味があるのではないかと思えた。

合宿全体を通して見ると、自分も含めて上級生の間に自分達に対する甘さがあったように思う。自分もそうだったが、1年生は常に上級生を見ていて影響を受ける。もう少しシビアな考えも視野に入れないと今の1年生が2年生、3年生になった時になっと残念な事になるなと感じた。少し大げさだが、後輩の今後は自分達によって決まると考えて行動する必要がある。
2年の時だれかが言っていた。「山岳会は上になる程荷物は軽くなるが責任は重くなる」まったくその通りだ。

今回、山での幸せグッズが1つ増えた。
それは本。
うす曇りの中河原で、もしくは雨の時テントの中でこれを開くととても気分がよろしい。オレってなんて幸せなんだと思えてくる。

今、日常生活で幸せを感じるのはコーヒーの豆の入った袋を開ける時、その豆をひく時、コーヒーを入れる時、そしてそれを飲む瞬間。オレってなんて幸せなんだと思えてくる。この時のBGMは静かな曲がよい。globとか忌野清志郎とかハードな洋楽ではいけない。なんか合わない。

テントの中で雨のBGMを聞きながら入れたてのコーヒーを片手に本を開く、書いてはずかしくなってくるが1回やってみたい。

No.

反省と感想　中島辰哉

（反省）　入山前の心の準備などができていなく、
中途半端のモチベーションで入山してしまったこと。
合宿中心中悶々としていて、しっかりした指示等
ができなかったこと。
上級生として不完全だったこと。

（感想）

入山前は、疲労困憊の毎日であったが、やはり山はいい。合宿は楽しかった。一年生は皆好彩であった。
昨今メンタル面で最悪な状態であったので、
合宿自体不安であった。それが負いぼったのか、
雪訓も行動中も自分のことしか考えていなかったようで、
何とも指示が出せなかったりした。
山を気持ちよく登るには、入山前の色々な準備は大切だ。
槍にまた登れなくて残念だ。
2年生の指示等がしっかりしていて、すごくたのもしく思えた。
雪の少ない涸沢も良かった。

のだ

今回、3回目の新人合宿ということもあり
何かとマンネリ化するのではないかとひそかに
恐れていたが、その心配はなかった。立場が違う
分いろいろ思うところもあり、おもしろかった。
反省は3年ということもあるのだろうか、特に記すべき
ものは心あたりがなく、まあよしとしたい。
でもあえて記すとしたら3年という学年に対して僕自身が甘
えていたということだろうか。走らなくていいやの的なもの
である。これは2日間ともまじめになれなかった。合宿前からモチベーション
を上げなければいけなかった。ただ、3年生を走らせた2年
にも猛省を促したい。
だれもたいしたけがもせず、無事に合宿を終えられて
よかった、よかった。

おしまい

No.

新人合宿　感想と反省　日高弘亦

〔反省〕

- 一年生に対しての指示が少なかったり、不足だったりした時があった。指示は適格にしよう。
- 風邪をひいたこと。誰もひいてないのに俺1人がひいていた幸いにも他の人にはうつらなかったが、ヘタするとまん延する。一番の反省です。
- ケガが多かった。歩き方に問題があるのかもしれない。これからはもう少しケガに注意を向けて山に行こう。

〔感想〕

去年とはまた違った風景のように見えた。涸沢はいい。また、色々と指示を出したり、教えたりして、上級生やな〜。と思ったりして、去年とは全然違った。よかった。

カッパ橋から飛び込むのは思ってたより高くて、けっこう恐かった。また水がめっちゃ冷たくて、一瞬体が動かなくなった しかし、これまたよかった。

しかし、蟻塚はきつかった。死にそうだった。

あと、電池はあまり安すぎるのはやめよう。MAXELの電池は使え

新人合宿の反省と感想

今年のモットーは「さわやかで行こうぜ'98」の
岸本

今回2度目となった新人合宿は立場も心境も去年とは全く違い、そこから学ぶことの多い合宿だった。初日、2日目の大雨、雪の少ない掴沢、など余り嬉しくないことも多かったが、一年生が一人も脱落することなく参加してくれたことは嬉しかった。

同期の仲間は一年を通じてだいぶ減ってしまい片手で数えられる程になってしまった。BCに着いた時去年の風景が思い出されて、ふとそんな事を考えてしまった。自分はともかく他のヤツは去年と比べると格段に成長していて上級生らしくなっていた。

2年生は、判断は求められるが決断は下せない、下からも上からも意見を求められる、仕事がやたら多い、荷物がやたら重い…。など、色々とあるらしい。実際2年生になってみてそこらへんの苦労がよくわかった。どこの世界も中間管理職とはツラいものだ。

個人的にはヒザの調子がどうにもならない程悪くて一応一緒に歩けたものの、周りに心配をかけてしまい、自分の中で耐えきらないものがあった。当分は山歩きは控えなければならないのは何とも悲しいが、仕方ない。しっかりと治したい。

今年のBCは例年になく虫が多かったらしく、去年の倍はいた。授業の関係で途中抜ける上級生が多く、その分僕はエッセンテントに配属された。一日置きならまだいいが、二日連続はマズかった。虫もただそこら辺を飛んでたまに飯の汁に入ってしまうマヌケな類ならいいのだが、これが人様にかみつき、血を喰らい、おまけにかゆいとなると全くよろしくない。僕の血がうまいのか、育英テントで2日エッセンをしてから、他のテントに移ってもかゆくてかゆくて寝れない日々が続いた。一週間たった今でもかゆいし、あとは残るし、タチが悪い。夏合宿前に一度バルサンをたきたい。

今年もまたまっすぐでクセのあるヤツらが入ってきた。野郎100%で少々品位に欠けるがよしとしよう。今年も楽しく厳しくさわやかな一年にしたい。

No.

大木ボード 反省と感想と憂鬱

昨年は風景や足元の山菜などよく見ていたが合宿が終わってみると、今年はそれがほとんどなかったことに気付いた。やはり上級生であることを意識していたから何かと1年生が気になっていた。2年生なんだなと改めて実感させられた8日間であった。初めて1年生を見ながら歩くということで2年生全員多少神経質になっているのを感じたが、それもリーダー会で指摘され、自分も"1年生を育てるための指示"というのを意識するようになれた。

雪訓も、突然、2日目になってできるようになっていたりしてとても感動した。下で1年生が突っ込んでくる(特に核弾頭ノック)のを受けとめるのは危険なものの、偉そうに下で待ち、かっこよく受けとめるのがなんともいえない快感であった。

屏風に登れなかったのは残念だが、最後にみんなと一つの頂を踏めて上がったと思っている。うちあげもうまくいったし最高の合宿でした。

〈憂鬱〉

その①：ひざがいたい。非常にやばい。なのにザックは45kg。それも雨を大量に吸って50kgに到達していると思われる。オレはふと思った…この中に団装を持っていない人間が数名いるなあ(正確には5名)。オレの疲労曲線が最高値をマークした徳本峠の登り、本気で3.4年をぶっ殺したいと思った。しかし、その考え方はあまりにも情けないので自分をひたすらこぶし、がんばった。

結論：次の新人合宿はもう3年生♡ 歩荷はあと、夏合宿の2日間のみ!

その②：女のことが頭から離れない8日間だった。煩悩のかたまりである。歩きながらずっと3年生を中心に人生相談役をやってもらい、ずいぶんすっきりした。グチ大王として、多くの人に迷惑をかけてしまいましたが、おかげさまでボクの心は真夏の青空のよう…

結論：めすは欲するが女はいらねえ!

No.

新人合宿の反省と感想　深沢遊

上級生としてのはじめての新人合宿で、1年生をうまく指導できるか心配だったが、雪訓のときいなかったのでそういう機会が少なかったこともあり、まあうまくできたと思う。行動中に一年生に指示とか注意を伝えるときは、どうしてもこまかいことまで伝えたくなるが、そこがなぜ危険なのかということを一年生に考えさせるのも大切だろう。しかし自分が一年生のときの感想から言って、考えさせるだけではだめだと思う。一年生を納得させるちゃんとした答えが必要だ。そのためには伝えるときにたとえば「だから間あけてきて。」などと理由をつけて言いたいがそれでは長くなってしまって煩雑になってしまう。やはり伝えるときはシンプルに。理由などはおいおい説明するべきだと思う。

今回は過去最高の歩荷をした上雨に降られ、最初の2日間はけっこうきつかったが嫌でたまらないということはなかった。歩荷の苦しさで雨はあまり気にならなかった。肩がモーレツに痛かった。トレーニング不足なのかもしれないが下界で走る気にもならなかったのでしょうがない。でもすくれぎみになったのはメイワクをかけたかもかけたかもしれないが大幅にすくれるということはなかった。今まで下りが大好きで高校時代は下山部だったとか言ってチョーシにのっていたが、それは今までの荷物においてであって、今回のような自分の体力ぎりぎりの重さにおいては通用しないことがよく分かった。下りで脚がわらってしまったのはまだまだ未熟だった(今年そうだ)高校のとき以来でショックだった。でも逆に考えるとこれまでも今回のには及ばないまでも似たような重い荷物を歩荷してきたので、それらのときに下りで足が笑ったりしなかった自分もまんざらではないなと思った。

雨で靴の中がぐちょぐちょになった一日目の夜、靴下をかわかすつもりで厚手、薄手両方はいて寝たが、翌日は足がふやけてしまい痛くなった。雨アガるときに同じことをしているにもかかわらずまたやってしまった。寝るときは足自体を乾燥させるようにしたほうがいい。靴下はふところにでも入れておけばいいし。山菜の知識ももっとつけたい。

No.

・・( )

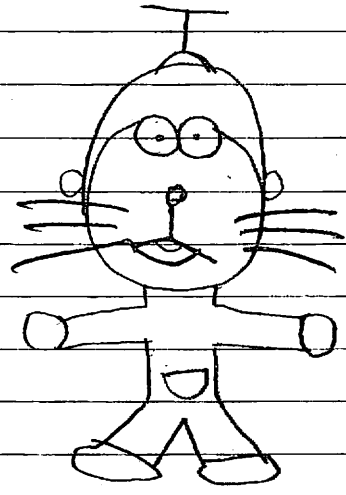
岡本伸也

反省

今回の合宿では今までよりなかなかよくできたと思う。
が、2年になったということで今までとちがった立場になったので、新たな反省がでてきた。先頭を歩くときやエッセンのとき、雪訓のときの示指の少なさ。また示指の自信のなさ。パッキングの下手さも反省の1つ。

感想

アプローチの雨はつらかった。ザックは重いし、びしょびしょだし。しかし何といっても8日間ずっといれたのはよかった。天ぷらつくったのは始めてだった。そして1ぱつ芸みんなおもしろすぎた。自分のをやったときみんなよろこんでくれて、やってよかったと思った。自分に自信がでた。最後のかっぱ橋ははっきりいって人生の上位にランクするほど感動した。縦走合宿の目標がでてきた。



どらえもん

新人合宿に思う

松嵜林太郎

雨の中の徳本峠越えと言う非常に印象に残る始まりだった。合宿直前に入会した自分にとって大きな不安があると同時にこれで信州大学山岳会の一員になったという嬉しさがあった。

前日の準備では先輩たちのすばやいレーションやエッセンの仕分け、抜け目のない装備の点検など自分も早く覚えなくてはと感じた。また、自分の装備については、完全防水していなかったこと、ピッケルの紐の結び方がいいかげんだったことなど以後の山行で気をつけたい。山岳会の公式ザックであるガッシャブルムを購入する必要があると感じた。

さて、合宿第１日目、ただただ、先輩の言う指示を聞きながら歩いた。徳本峠においては、自分の勝手な行動によりみんなを待たせてしまった。素早く行動することを心がけたい。雨が降り続いたので、周りの景色が見れなかったことが残念だった。しかし、雨の中うっそうとした森の中を歩くのは快感でもあった。２日目は雨が降ったり降らなかったりと気分が幾分楽になった。行程もたいした事はなかったので肉体的にも余裕ができた。しかし、落石地帯を十分注意して通過しないなど甘さも出てきた。そして、ＢＣ入り。それにしても、豪華なテント場で感動してしまった。初めてのエッセンテンも楽しかった。

３日目からは雪上訓練が始まった。涸沢走りは不意打ちだった。雪上訓練は緊張感のあるものだった。自分の身を守る技術としてしっかり身につけなければと思った。今日の天気はよかった。穂高連峰が見渡せた。やっぱり山は最高だと感じた。４日目も雪上訓練。快晴。ポリタンを忘れてしまった。ピッケルストップが難しい。先輩たちの指示をしっかり聞いてがんばる。食いしごきもまだ続く。５日目、ピッケルストップを何とか乗り越えて、六峰を登ることができた。初めてのピークは最高だった。六峰からの帰り、少しだらけていたせいか足を滑らせてしまった。ピッケルストップの一連の動作ができなくて非常に残念だった。そして、この日は涸沢から離れる日だった。アラヨコールを掛けて雄大な景色の穂高連峰を後にした。６日目は未明からの雨でﾁﾝﾃﾞﾝとなった。槍ヶ岳へ登れないのは非常に残念だった。しかしテントでのくだらない会話もそれなりに楽しかった。そして、合宿７日目。残念なことに天気が悪い。槍へは行けなかった。しかし蝶が岳へは登ることができた。途中の槍見の丘では山水画を思はせるすばらしい光景だった。頂上でのパイナップルは超オイシカッターって感じ。そして、魅惑の夜へと突入していった。エッセンは言葉のでないほどおいしかった。山であんなに美味しい物を食べたのは始めてだった。下界でもなかなか食べられない。これから後のことは記憶にゴザいません。翌日、ＢＣを撤収して上高地へと向かった。今まで亡くなられてきた先輩たちの冥福を祈った。河童橋からのダイブは快感だった。またやりたい。

今回の合宿は何もかもが初めての体験だった。そして反省すべき点が多くあると強く感じた。今後の山で反省を生かしたい。自分にとって最終日の夜以外充実した合宿だった。

98,

No.1

新人合宿の反省 SAC1年目 若尾和也

1、天場での諸動作が遅い。

これはまだSAC流の生活技術が身に付いていないため次にやること，そして次にやること・・・という一連の流れが自分の頭の中でイメージされてないため，準備をせずに結果として余裕をなくしているためだと思う。

—(対策)→ 早く生活技術(SAC流)を身に付けて頭の中でイメージづけて早め早めに先のことを準備する。

2、行動技術(ことに雪上技術)をしっかりする。

グリセード，ピックルストップについてはかなりやっていてそれなりに自信はあったが，ひさびさにやってみると形が崩れていたのがショックだった。

—(対策)→ 基本をもう1度おさらいする。特に11月の~~槍ヶ岳~~プル合宿で体に教えこむ。

3、時間(集合時間など)をもっと守る。

今日は横尾山荘前に4時に行く予定(僕はバイトのため途中から参加)なのに15分遅れて日高さんに御迷惑をかけてしまった。

—(対策)→ 時間にはもっと余裕を見て松本を出るべき。そういう余裕を見れる様な人間になれる様に性格を日常から変えていく。

4、もうすこし紳士となる。

山岳会は全員オトコ。しかも僕は、信州で自分の心をさらせる仲間がなかなかいなかったものだし、僕はかなりオゲレツな人間でイロイロな経験があるものだから山の行動中、B.C.などで自己を見せすぎまして、先輩、トンパの方々には引かれるぐらいの大迷惑をおかけしました。ゴメンナサイ。

——(対策)→ オゲレツ話はもっと内緒でね。

P.S. 僕の話のせいで9月に北海道遠征をする者が続出するらしい。

落石注意

でも最大のチョンボは

5、車は駐車場代をけちらず、安全な所に停める。

1日500円のお金をケチって先輩から教えてもらった崖の下の空地に車を停めて上高地経由で入山。5日後に山から降りて車にのってさあ出発しようとして後ろをふりむくとリアシートにコナゴナになったガラスが‥‥外に出て点検すると、ボンネットはベコベコになっているは、助手席のドア下のフレームにひと抱えもある岩がドスンと落ちていて鉄板が曲がって穴があいているは‥‥松本への帰り道は中島みゆきのテープを聞きながらすっかりブルーな気分でした。次の日修理代の見積もりを出してもらったらなんと20万!!! 115円で買った車だし、だいたいそんなカネどこにあるんだ〜。(またやられちゃった。)

—(対策)→ キケンと感じたらすぐに引き返す。又はなんらかの策を講じる。(つまり危険認識をし、行動する。山と同じである。)

以上

感想と反省

梶原恵 (K)

前日の準備の日は、とても忙しかった。
出発前日なのに、個人装備の防水の甘さなどで、パッキングに時間がかかった。もっと前から用意しておくべきだった。また、食糧や装備などの準備では、わからないことが多かった。これから覚えていこう。
団装も決まって、パッキングがすべて終わった時、※30kgだった。重さに対しての不安があったが、二年生は、もっと重いので頑張ろうと思った。

一日目は長かった。徳本峠の下りがとてもきつかった。テントを張って、僕はエッセンテントだったのだが、最初まったく何をしていいかわからず、ボーとしていた。その時、先輩方がテキパキと動いて、指示をしてくれて、とても立派だった。次のエッセンテントでは、けっこう、やるべきことがわかっていたので、動けた。

そして何より、雪訓だ。ピッケルストップは、とても難しく、なかなか止まれなかった。また、涸沢のダッシュでは、自分の弱さを思い知った。トレーニングの必要性を知った。夏までに強くなると誓った。

山では、常に危険があることも知った。横尾→涸沢で落石が起こった。どうしていいかわからず、オドオドしてた。その時も助けてくれたのは、先輩だった。

今回の合宿で先輩の偉大さを知った。

早く、先輩のようになって越えてみせる!!

ガンバル!

新人合宿。自分にとっては初めての山登り。
1日目。徳本峠越え。30kgの荷物に早くもdown。1人だけ遅れ、やっとの思いでTCに着く。着くとすぐに雨が降り続く中での初めてのエッセン。うす暗い背英テントの中にもうもうと立ち込める蒸気が印象に残る。
2日目。横尾のBCまで歩く。ザックが肩にくい込んで痛い。
3日目。涸沢での雪訓。涸沢走りに全く、ついていけず体力不足を痛感。しかし、この日は快晴。涸沢からの景色にちょっと感動。
4.5日目。雪訓が続く。ピッケル・ストップは難しい。雪山の昇り降りにはもうバテバテ。涸沢の空は青くすんでいて、6ぽうからの眺めは最高。
槍が穂がへっきりとんがっていた。
6日目。ちょっとバテきってたのでちょっとうれしい。
7日目。あいにくの雨。槍には登れず蝶が岳へ。
蝶の途中から槍が見えた。来年は登るぞ。
最後の最後によっぱくメシがうまく感じた。うまかった。
これでこのBCともお別れ。とてもいいBCだ。また来たい。
8日目。下山。かっぱ橋よりダイビング。気持ちよかった。
帰りの車中。ブルーハーツに妙に感動。何故かこにしみた。
合宿中は終始バテてたという印象が強いが、雄大な景色の数々も、同時に頭の中に残ってる。得たものは多く、面白かったので、もっと体力をつけて、もっと楽しめるようにしたい。

横山 輝生

Date

新人合宿の感想と反省　横山(ボンビー)勝丘

～感想～

まず最初に、この合宿の感想を一言でいうなら、「楽しかった」という文句に尽きる。そして更には、これまでの山行の中で、最も得たものが大きく、かつ多かったということが言える。もちろん辛かったこともあった。初日は雨の中、重荷にあえいだ。涸沢走りは、正直なところ、泣きそうな顔で走った。そして、テント内に同居するダニ君たち。彼らは私が好みらしい。半端じゃなくさされた。

しかし、そんな思いからも、ただ辛かったという思い出だけでなく、何か得るものがあったと感じている。山は楽しい。でも、ただ楽しいだけじゃない。正直いって辛いと思うことがけっこうある。だけど、その辛さをいかに楽しく、または、何か自分のプラスにできるかによって、その山行の成否は決まるのではないか。そんな面において、今回の合宿は、何度も言うようだけど、充実した、自分の為になった山行だったと思っている。

雪訓では、なかなかピッケルストップのときの回転がはやくならなくて手こずった。だけどピッケルストップは大切だ。1日目、2日目とうまくならなくて、3日目のときには、「絶対今日は止まってやる。」と意地になった。先輩が「集中、気合い」と言っていたことがちょっとわかった気がする。涸沢から見た穂高の景色、威圧するような屏風岩、河原の落ちつく風景など山の美しさを再認識させてくれた山行でもあった。そして、先輩方の山に対する取り組み方を見ていて少し感動した。また、最終日に、お墓参りに行って、これから自分も、山に対する取り組み方をしっかりと考えていこうと思った。まだ山岳会生活は始まったばかりだ。我ながらこれからが楽しみだ。

～反省～

防水の甘さが際立ってしまった。今まであんなにも厳重に防水をしたことはなかったのだけど僕の認識不足がすぐわかった。われたものを身につけたくはない。これからもっとしっかり考えねばならない。

MSRに対する知識をしっかり身につけておけば良かった。山中で、先輩に教えてもらって助かったが、そのくらいは自分でやっておかねば…。

うんこをためてしまった。痔にならないように気をつけねば…。

河童橋からのダイブは、あせってしまってパフォマンスができなかった。もっと余裕をもたねば…。山行中においても…。

すきだ――。

No.
Date.

『新人合宿を終えて』

小尾 左弘

大学生活最初の五月は、一週間の山行でしめくくられた。高校のときも山岳部には入っていたが、一週間という長い山行は、経験したことがなかった。

雨の徳本峠を越える。三十数kgという、かつて経験したことのない重土の荷をかつぎ、黙々と歩いた。夕方、明神近くのテントサイトへ着いた。もうヘトヘトだった。テント割りが発表された。僕は「エッセンテン」。山岳会のシステムを理解していなかった僕は驚いた。食事の係がいて、全員分の食事をつくるなんて。しかも降りしきる雨で、もうテントから土まで、ビショビショだった。その中で、野田さんと川井さんの指揮のもと、晩めしの仕度は猛烈に進められた。そして豚汁は完成し、食事が済み、明日の朝食の用意をして、寝袋へ入った。思えば長い長い一日だった。

二日目の午前中、BCに着いた。

三日目からは、今回の合宿の主な目的である、雪訓が始まった。覚えが非常に悪い僕に、先輩方は時間をかけて、何度も何度もやり方とコツをしこんでくれて、五日目には、ようやく合格点をもらえるまでになった。

初日、二日目と非常に長く感じた合宿も、後半はあっという間に過ぎていた。6峰に登ったり、蝶ケ岳へ登ったりして、毎日は過ぎ、最後の晩ごはんをむかえた。その日エッセンは全て上級生が担当して、一年は近寄るな、と言われた。一方では集めた枯木が高くつみ上げられ、見たこともない大きなの、キャンプファイアーのやぐらがでっあがっていた。午前中まで降り続いた

N・尾

雨は止み、晴れ間が見え、夕暮れの空に屏風岩が映えていた。

出来上がった夕食は、見事なものだった。野菜や山菜のテンプラ、空揚げ、肉野菜炒めの三色丼。飯も最高の出来だ。むさぼるようにして、それを食べた。先輩達が心をこめてつくってくれた三色丼、そして長くて短かった合宿最後の晩さん。一粒たりとも残すものかと思うた。何杯でも食べれた。この上なくうまいメシだった。

それからやぐらに火が放たれた。雨で湿っていた枯木はなかなか火がつかなかったが、やがてゴウゴウと燃えだした。夕闇みに包まれ、空には合宿中始めての星があらわれた。キャンプファイアーが始まった。

一人一人の感想や、リーダーの話、知恵とユーモア(?)に溢れた一発芸などが、次々と繰り広げられた。そして夜も更けて、皆が笑い疲れたころに、宴は終わった。後に残った火を囲んで、皆思い思いの場所に座り、静かで、穏やかな時間を過ごした。闇の中に、梓川の音が響いた。

最終日は晴れ上がった空。上高地へ向けてゆるりと歩いた。合宿をしめくくったのは、噂にきいていた、河童橋ダイビング。リーダー亮介さんの華びこみの美しいフォームが印象的だった。僕はサンダルを流されて、しばし川下りをするはめになった。

長くて短かい新人合宿は終わった。メンバーは皆、それぞれにキラリと光る、素敵な人物たちだった。後悔しているのは、自分がそれぞれ人に語りかけることが足りなかったことだ。もっと話をすればよかったと思う。これからも事あるごとに、交流を深めてゆきたい。お願いします。

No.

医療　感想と反省

日高 弘次

〔反省〕

- 防水が甘かった。医療品それぞれに防水して、医療かんをぴっちりとしめて、それをさらに防水しないといけない。
今回は袋をそれほどチェックしなかったが、穴があいていた。
きっちりとチェックして、しっかりと防水しよう。

- 足りない物があった。今までの合宿での反省が生かされてなかった。

- 今回大きなケガはなかったが、どんなケガがあっても対処できるよう勉強します。

〔感想〕

合宿での係というのはどれも大事なものである。どの係をやるにしても、知識が必要だ。勉強しよう。

No.

装備からの反省

岡本伸也

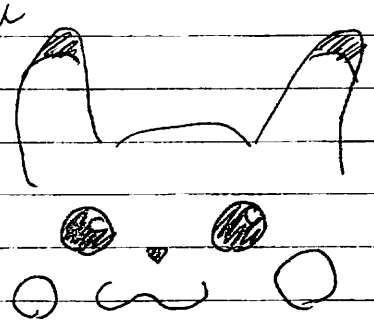
- 育英テンのはりつなを忘れた。
- タンロップテンのポール袋に予備ポールがあるのを知らず、多くもっていってしまた
- ロープを多くもっていきすぎた。
- やかんが1つふたつきだったので銀食器が1コ必要なかった
- MSRのほとんどが調子悪くなっていた。
- 育英テンに防水スプレーをかけたほうがよい
- 登はん用のザイルなどはビニール袋に入れて防水すべきだ。
  ぬれるとやばいしおもい
- メタを50本以上できとうにもっていったので後で、かぞえるときこまった。

消費量

メタ	30本くらい
白ガス	5400ml
ロープ	1本と2/3本

はそん or こしょう

- タンロップポール1本 こしょう
- MSR本体3台 こしょう
- フス板1コ はそん



No.

記録：特にない。雑人雑感の防水をしっかりすべきだった。

気象：自分なりに天気の資料を必要なだけ集められたので良かったと思う。しかし山の天気はよく分からん。今回も昨年と同じく自分たちの天気図、さらにはラジオの天気予報とも反対の天気になったことが多かった。どうも新人合宿にはそういうジンクンマがあるようだ。最終日は晴れて河童橋から飛び込めてよかったね。次の合宿からは最尾の意見を入れて気象係がラジオの天気予報の時間を調べていって聞く体制をつくっておくとよい。

深沢

エッセン反省ばっかり　　大木 BOND

反省① 二日酔い & 重度の風邪で買い出しに行ってしまった。
その結果が連日の食いしごきである。みんなすまん！

〈反省から得た教訓〉

- エッセン隊長をはじめ、その他会員の全ては合宿3日前から禁酒である。たとえOBの甘い誘惑があっても行ってはならない。
- エッセン隊長は買い出し前に全てのグラム数、個数を把握するべし。当たり前であるが、3日連続でのんだ私がバカでした。

反省② 米がやたらと余った。→無駄な重量である。バテる。死ぬ。
その他、量数計算にミス

〈教訓パートII〉

- 米は10合ずつなどで袋詰めし、どうせ多いのだから その以上は持ってゆくことはない!! たとえ上級生が"そんなのだりぃからいいよ"と言ってもエッセン隊長はたたかうべきである。エッセン隊長は孤独なのだ。

その他細かい事

- オヤツにパンはよくない。
- 装備のことかもしれんが、固箱は完全防水すべし。

会計報告　　岸本

収入　224200円

支出　189655円

その内．食費．　128,422円

装備費　17,333円

交通費　43,900円

残金　34,545円。これにOB篤西さんからのカンパ10000円を足して

44,545円

残金は全て．駐車中に落石にあった不幸な若尾君のカーの修理費にあてることに決定。

〈山岳会近況報告〉

最近　会の内部で坊主化が進んでいる。16人いる部員のうち坊主は5人。今のところスポーツ刈り党に継ぐ最有力勢力になっている。他にも入党をチラつかせている者もいて．夏休みを境にさらなる勢力拡大が予想される。

1年生

魂の叫び

うるさい!

「一発芸」

梶原恵 ㊀

僕はその日蝶ヶ岳の往復の間ずっと考えていた。一発芸を。最初に考えたのは「唄」。ダメだ。僕に歌の才能はない。次はものまね。そうだ猪木だ。僕の頭の中に猪木が入場する時の音楽が流れた。これはイケる。他には……そうだ！先輩だ。まねができそうな人はと考えると、野田さん、麦谷さん、岸本さんの3人しかいなかった。しかしものまねはいけると思った。しかしまだ1つだけだ。あと2つ考えなければいけない。僕は蝶ヶ岳の急登の中一歩一歩踏みしめながら考えた。腹話術、まんざい、コント、替え歌、しかしどれもさえないものばかりだ。そんなことを考えているうちにBCに戻って、飯くって、一発芸の時間がきた。最初は川井さんと中島さんの素晴しい歌。感動した。続いて小尾君。彼らしい芸だった。そして次が、そのまた次ぐらいにとうとう僕の出番。僕は緊張の中ものまねをすることにした。まず岸本さんの「まのこ～！」でつかみはOK。次は麦谷さん、野田さんのまねをした。1回目はこれで終わり。

2回目は岸本さんにブリモの濃さを挑戦した。しかし生まれて初めて、僕は負けた。岸本さんはスゴかった。あらゆる面で。酒がまわり、勢いづいてきた僕はゲスの世界に入っていった。そしてとうとう3回目。僕はここでは書けないことをしてしまった。あれは失敗だった。ゲスだった。しかしあれは本当の僕ではない。僕は男の仁義にかけてやったまでだ。

4回目。指名された時、もうネタがないとあせったが、すぐに思い出した。猪木だ。僕は猪木の現役時代をおもわせるカロやかなステップで登場し、雪訓で練習した。直上をした。もちろん、シメは「1、2、3、ダァ～」大成功だ。

以上で僕の今年の一芸は幕を閉じた。反省は考える時間が少なく、ゲスへ道に足を踏み入れたことだ。来年は反省を生かし、よりよいものを造っていくぞ～。岸本さん来年こそは…。

Date　　No.

我が心の下宿～市川荘～　横山 勝丘

我が家は松本のはずれ、浅間温泉にある。西には、目の前に田んぼがあり、その奥に女鳥羽川が流れる。そして、その上に端正な形の常念岳がどっしりと構えている。少し視線を左にずらすと、残雪に輝く乗鞍岳が見える。五月は、あやめの咲く田んぼにかもが泳ぎ、常念岳が苗の緑に映えて美しい。私は毎日こんな風景を眺めて暮らしている。私の自慢でもある。しかし、更なる自慢がある。それは、我が家そのものである。その常念岳よりも端正な、傾いた我が家は、まさに私が住むにふさわしい。なにせ、築80年…。壁がしっくいでできている。4月に神奈川に住む友人が我が家を訪れたとき、前もって「すごいよ」といっておいたところその友人は考えうる限りのすごい家を想像していたそうだ。ところがどっこい我が家はその友人のキャパシティを超えてしまっていたらしい。帰るとき、「もう来ません。」と言って帰っていった。しかし私は、それを逆手にとって自慢しているのだ。こんな所に住んでいる人はそうそういないはずである。しかもペットまでいる。子どもたちのヒーロー、ミッキーマウスである。その生息数は得体が知れない。また私の部屋には『はたおり機』がある。ある友人は、「つるがおっていそうでこわい。」といって、「たわくて来れない」といって帰っていった。お前らはわかってないよ。ちゃんとこの家の愛好者がいる。私も自慢したくてしょうがない。賞味期限が昭和55年の食品だって見つかる。1年以上たったものなんて、わんさとある。それを見て楽しむのがまたいい。とにかく中途半端じゃない。かぎだってない。泥棒が楽々入れる環境にある。まあ、入ろうとする泥棒なぞいないだろうが…。トイレの作り方もなかなかオツである。なぜか水洗だが、そのアンバランスなようで計算しつくされたコーディネイトは、マティスの絵以上である。私の部屋は二階にある。二階というより、屋根裏部屋風だ。何と8畳×2＝16畳である。しかも1月16000円だぞ、コラ。下や隣の連中はやつらはバカばかりで、すぐ脱ぎだす。とにかく笑いが絶えない。そうそう、笑うといえば、私の部屋は笑うとカタカタ揺れる。擬似地震が体験でき、いざ地震のときに落ちついて対処できる仕組みになっている。それ以前に松本市内で最初につぶれるという意見もちらほら聞かれる。本当に、いるだけで楽しい下宿である。1年生が8人いて、皆、仲が良い。実は、この仲の良さが一番の自慢かもしれない。下に住むやつは、ブルーハーツをギターで全曲弾けるので、一緒に叫んでばかりだし、先輩は、モンゴルからの留学生といううわさがあるし…。馬鹿さにおいては、こまくさ寮を上回るといううわさもあるくらいだ。

でも、市川荘は市川荘。こまくさ寮ではない(当たり前)。自分達が楽しければそれでいい。本当の話、仲の良さでは抜群だ。そんな下宿だが、来年、長野に3人、伊那に1人巣立ってしまう。今のうちに仲良くやっておきたい。だから今私は、食事の時間が皆と会えるので楽しみである。もちろん、すきなだけ食べられるという楽しみもあるが…。大学に来る前は、下宿は何だかいやだなー、という不安もあったが、そんなものはとっくに消えた。こんなに楽しければいつまでもいても良いと思う。自由がなくていやだ、とも思っていたけれど全然平気だ。門限なし、友人がよくあそびに来て酒を飲んで泊まってゆくし、女性と部屋で過ごすことだって可能だ。一人、既に彼女ができたやつがいるが、よくあそびに来てる。あとちょっとしてその彼女が泊まってゆくことがあって、物音が聞こえるようなことがあっても温かく見守ってやろうじゃないか。ここまで読んできてあなた方はどう思いましたか?ぜひ来てみたいと思ったでしょう。きっとそうでしょう。私もあなた方を市川荘に連れてきたい。まだ迷っているあなたへ!大家さんは美人で、20~30年前だったら、惚れていたかもしれない。さらにその3人の娘達は、美人三姉妹として超有名である。これには驚かされました。さあ、今年のOB会は市川荘に決定だ。

そんな我が家も、老朽化のため、数年前には取り壊しの話が持ち上がったらしい。それを、この建物に思い入れのある人達が何とか止めたという。私も、自分が住んでいるときはもちろん、その後も残してほしいと思っている。住んでいる人以外にも、本当に市川荘を気に入ってくれている人達がいる。そんな人達は『チーム イチカワ』に入会している。さあ、あなたも。そして私の家を守り、愛してください。私はこれから先も、ここに寄生虫のように住みついてやる。

僕とヒゲ

僕は毛がちょっとこい。その歴史をふり返ってみよう。
中1の時アソコの毛が1本だけひょろ長く生えたのを覚えている。ビックリした。
高1の時乳毛がのびてるのに気づいた。びっくりした。切っても切ってもさらにのびた。びっくりした。
この頃ケツに毛があるのに気づく。ケツに毛が生えるとは知らなかったのでビックリした。
バイト中(高3の時期)、アゴから首にかけてヒゲが生えてきたのに気づく。こんな所までヒゲが生えるとは知らなかったのでビックリした。
受験勉強中、腹毛が太くなったのに気づく。
スゲー。
ついでに胸毛もチョロチョロと生えてきた。
なんてダンディなんだ。もう好きにしてくれ。
しかし、自分もう新たに生えてくる所はないだろう。ちょっと残念だ。
以上、簡単ながら僕とヒゲの歴史をふり返ってみました。

横山 輝生

No.

枝 ・・( )

5, 6 ~~[illegible]~~ のコルにて

松寺林太郎

今回の新人合宿で衝撃的だったこと。
それは足の臭いである。自慢じゃないが山岳会の中では、一、二を争う足ではないかと思う。その臭いと言えば、ドブの臭いが進化を経て、エッセン中のたまねぎがブレンドされ、パキスタンの核実験に匹敵する緊張感をもたらした。
自分でも度々叫き気を催したものだった。
また、下山後、サンダルにもその臭いが感染してしまい、お気に入りの雪駄の生存が危ぶまれるようになってしまった。
恐るべし足の臭い!!
しかし、これは山屋にとって避けられない宿命なのだろう。だから、これからどのようにこの猛毒物質と共存していくかを考えた方が得策なのだろう。

① 足の臭いと早急に国交を結ぶ。

② 生物多様性条約に基づき、水虫を繁殖させる。

この二点さえ実行すれば、あなたも私も立派な核兵器保持者だ。
二日酔いなのでこのような手しか書けませんでした。
お粗末様でした。

私の雑感 ―新人合宿を終えて― 98

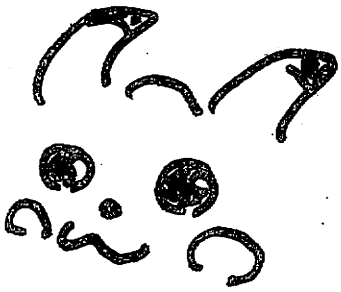
SAC 1年目
若尾和也

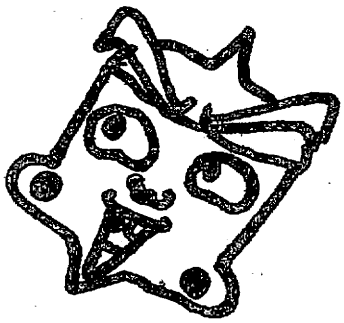
上高地からB.C.のある横尾，そして雪訓をした涸沢までの道は以前体験したものと似たものがあった。そう，ネパールのキャラバンの時に通った谷の中の道にそっくりなのだ。変な話だが今回山の中で1番ハッとしたことはこのことである。なぜそうなのだろうか？そう，それはこの道筋がずっとU字谷で大きなスケールで続いているからなのだ。日本の中でこれほどのスケールの景観があるとは思わなかった。今回は日頃の行いの悪いヤツがいたらしく，槍や穂高（松本さんではない）には登れなかったが，こんなデッカイ山が少なくとも1泊2日で行ける所にこれから四年間住めるのだから幸せである。（悪魔の誘いという説アリ）

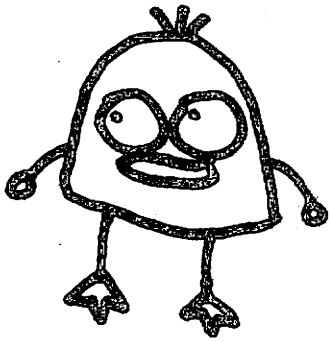
あとB.C.の最終の夜のようなたき火をかこんだ飲みはやっぱりよかった。多大な迷惑をかけたらしい（僕は記憶がないのだが）のですがこういう飲みのできる場と仲間のある山岳会はとてもいい所です。やっぱり僕にはこういう落ちつく所が必要だと思った。

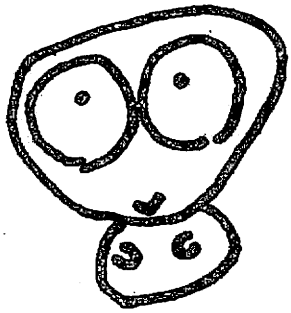
でもやっぱり岩のピークに立ちたかったなあ〜。

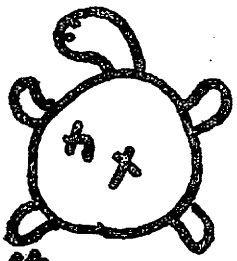
信州大学山岳会











編集　大木ボンド
表紙　梶原
発行　松本支部
'98 7月15日